

## 市長の施政方針に対する質問

**Q** 令和8年度予算編成に当たっては、国の動向と市財政の課題を踏まえた上で必要な市民サービスを維持できるよう、より一層事業の選択と集中を進めていくことについて、「集中」の対象をどのように考えているのか。

**A** まちづくりの推進において、「未来につながる投資であるか」「持続可能性や発展性があるか」「高齢者が安心して住み続けられるか」という3つの軸に基づき、「選択と集中」の観点から各事業を精査し、実行に移しております。

代表的な事業の1つ目は、中心市街地の活性化に向けた取組です。神立停車場線沿線の民間の活力を生かした都市機能の充実と地域のにぎわいを生み出すエリアとする大胆な方針転換を行い、早期実現に向けた取組を進めているところです。

2つ目は、公共施設の再編・統廃合に向けた取組です。官民連携による多様な資源を最大限生かした取組を進めてまいりました。現在は消防活動拠点としての機能の維持・改善を図るため、消防本部、西及び東消防署の移転整備計画を進めております。

3つ目は、子育て世帯への支援及び学校教育の充実を図る取組です。全国初の取組となる通学用自転車シェアリングサービスを継続することに加え、0歳から2歳児の保育料の完全無償化、学校給食の完全無償化を着実に進め、保護者の経済的負担の軽減につなげてまいります。

そのほかに、ふるさと納税の拡充に向けた取組や、トップセールスによる企業版ふるさと納税の確保など、財源の確保と新たなパートナーシップの形成に向けて引き続き取り組んでまいります。

**Q** 「既成概念にとらわれない大胆な発想の転換」という点において、中心市街地の公共施設を、市民の交流や利便性向上の拠点としてどう再定義し、令和8年度以降は具体的にどう考えているのか。

**A** 神立駅西口2万8000平方メートルで計画していた複合交流拠点施設整備を白紙化し、民間の活力を生かした都市機能の充実と、地域のにぎわいを生み出すエリアとする大胆な方針転換を行いました。現在は、広く民間企業からのサウンディング調査を実施しており、令和8年度中に公募型プロポーザルを行い、魅力的な都市空間の形成につながる事業選定を実施する予定です。

中心市街地公共施設については、人口減少・少子高齢化の進行、扶助費等の財政負担の増大、施設の老朽化や借地問題など、限られた財源の中で公共サービスを維持し、将来を見据えた持続可能な運営を行うことが必要となっている状況を踏まえ、将来世代に過度な負担を残すことなく持続可能な公共施設の在り方を検討するため、「中心市街地における公共施設の在り方に関する検討委員会」に諮問をいたしました。委員会では、多様な意見を尊重しながら、最適な施設整備の方向性を探る中立的かつ多角的な議論が行われてきていると認識しております。今後、現状を踏まえ、最適な整備方針案の報告があるものと期待をしております。

**Q** 基幹産業である農業について、いかなる戦略を持っていくのか。高齢化によって非常に困難になってきている米作りや、レンコン栽培で苦勞している線虫対策については、今後どのような形で対応を検討していくのか。

**A** 本市の農業につきましては、担い手の育成支援や企業の農業参入も含めた担い手の確保が重要であり、そのためには安定的な農業経営の取組を推進する必要があると考えております。

特産作物であるサツマイモの生産量の増加及び加工品の販売促進に加え、新たに粟の作付面積の拡大と生産量増加に向けた取組を推進するとともに、産地の維持・継続を図り、経営の安定化と後継者不足の解消につなげてまいります。

米対策につきましては、引き続き農地の大区画化やスマート農業の導入、多収量品種の導入など、効率的で持続可能な営農活動の取組を進めるとともに、農地のマッチングを進め、規模拡大意向のある農家へ農地の集積・集約化を図ってまいります。

レンコン栽培における線虫の被害につきましては、土壌診断の実施、適正な輪作や湛水管理の指導、抵抗性品種の導入検討など、総合的防除の観点から県や関係機関と連携して技術支援を行っております。また、薬剤防除につきましても、適正使用の徹底と効果的な活用方法の周知に努めております。今後も、環境への配慮と生産性の両立を図る防除対策を推進し、生産者の経営安定につなげてまいります。